

課題になっている行動（気になる行動）

「きれいに洗って」が
どのようにしたら終わりか
わからず、時間がかかったり
混乱たりする



監修・文 水野敦之 絵：宗貞由貴

環境・状況の要因	本人の特性	本人の経験や気づきの影響
☐ 様々な状況の変化 ■ 影響を与える刺激や情報 本人がイメージできない曖昧な指示 ■ 必要な支援がない どうなったら終わりのかの指示がない きれいになるの具体的な提示がない ☐ その他	■ 受容コミュニケーションの特性：曖昧で抽象的な指示の理解が難しい ■ 時間の整理統合の困難さ どのくらいで終わりのか、どうなったら終わりのかの理解が難しい ■ 空間の整理統合の困難さ ■ 想像思考の困難さ	☐ 習慣になっているものがある ☐ 自分流の気づき・考え方をもつ ☐ 過去に経験したこと学んだことを ☐ 過去に経験したことにより恐怖や嫌悪感をもっていること
■ 行動前の状況※ 明確な指示がない。		■ 行動後の状況・結果※ 終われない、混乱する

活用できる他の資源	活用できる本人のスキル	活用できる本人の気づき
1対1で教える場面がある	時間や個数の理解はある 面の範囲の理解はある	きれいにしようとはしている 繰り返しで学ぶ

支援計画 ※支援の具体的な計画は自立課題シートで整理する方法もあります		
環境を変える部分は？	本人の特性にあわせた支援は？	本人に伝える・教える部分は？
・本人が理解できる具体的な指示で伝える。 ・場面状況によっては、文章や絵などで伝える。	・曖昧で、抽象的な指示ではなく、本人がイメージできる時間や回数、面、などで具体的な指示で伝える。 ・まずは1対1の場面で教える	・モデルを提示してイメージを伝える。 ・モデルなどでエラー修正して、いい動きができたなら「それでいいです」などのフィードバックをする。

解説と支援の方向性について

「きれいに」という指示・基準は、抽象的でわかりにくいものです。曖昧でイメージできない指示よりも、「手のひら10回」や「2分間洗って」のように、回数など、イメージできる内容で伝えることが重要になります。